郷土の散歩

11 伝説（沼にまつわる）

開墾をものがたる古文書

私たちの村は、江戸時代以前は、ほとんど沼池であったらしい。祖先が沼を排水し開拓したことも古文書に記録され残っている。また『久保田、猿ケ瀬、在郷の港、家の軒場に船がつく』『田子島にド田がなかよかろ、いつも心がどたどたと、場所だ場所だと田子島場所だ、前に丸山離れ山』『嫁に行きゃろば横曾根きゃれ、前によし野の鏡潟』と部落の盆踊の囃方にも沼が歌われている。それにまつわる伝説も残っている。

鏡潟としゃれこきの娘

潟上、船越、横曾根の地域に鏡潟という大きな潟があった。近年迄に葦が生い茂り、その名残はあったが今は完全に開墾されて、良田となっているが、ここにかみじゃけ（上蛇池）しもじゃけ（下蛇池）と云う名称が残っている。その昔大蛇が棲んでいたとのことで伝説が残っている。横曾根の利左エ門と云う家に一人の娘があった。この娘は、生まれつき美しい上に、又しゃれこきであって、毎朝、顔を洗い、髪を梳って井戸に行き、井戸の水鏡に映して、自分自身の美しさに見とれているのが常であった。ある日、突然、この娘がいなくなりました。最初は、家族だけで尋ね、次は親族、近親で採ねましたが、どこへ行ってしまったのか判りません。そこで村中総出で大騒ぎとなった。そうこうするうちに、村の若者が『今朝、井戸を覗いて化粧しているのを見た…』とゆう者が出てきた。それならば井戸に誤って落ちて沈んだに相違ないと村の若者が数人井戸に入って探ねたが見当らぬ、おかしなこともあるものだと思い、ふと井戸の側のくずれて、うつろになった処に、小さな蛇が一匹見つかった、その蛇を取りおさえて引き上げて大ぜいで取巻いて良く見ると、この小さな蛇は体の割合に、目玉だけがバカに大きく光っていた。村人はこれは不思議だと思った。蛇は化けて、体を小さく見せても目だけは隠すことができぬと伝えられている。この蛇こそ、潟に住んでいる大蛇に相違ない、そして娘を呑んだに違いないとよってたかって打殺した、そして打ちたたかれ断末魔にのたうち苦しむうちに大蛇になり、そして『もつこ』に三度も運び捨てたと云う。今横曾根の神社の傍に蛇松と云う老松のあるのはこの蛇の残骨を埋めた場所だと云われている。この蛇を打殺してより年々鏡潟が浅くなってしまったと言うことである。

池月と磨墨

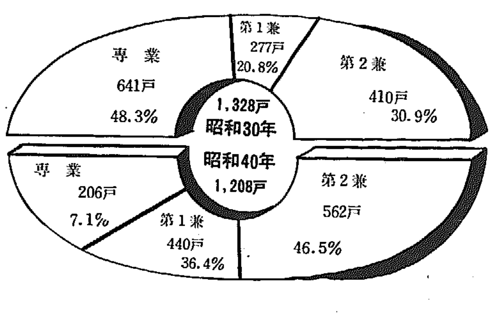
今より、八百年位前、樋曾に惣左エ門と云う、百姓があった。惣左エ門は、馬を飼う事が上手で近在に知れわたっていた。秋のある日、都より馬喰が彼の評判を聞いてやってきた。そして惣左エ門の手飼の駒をほめたたえた後にその駒を売ってくれるよう申し入れた。その結果、惣左エ門は近在にない高値に売れたと心に喜んで売った。馬喰はこの馬ならば、幾らになるかも知れないと期待に勇んで都に帰っていった。そして金池まで行った時、秋の短い日が暮れたので宿を求めて宿泊した。夜半、馬喰は小便に起きた。ふと厩を見ると馬がいない、驚いてあたりを見たが見当たらぬ、宿を飛び出して楊子潟の方をたずねてみた。これはどうしたことだろう。秋の月明りなる楊子潟の水に波を立てて馬が泳ぎ廻っている。これを見た馬喰は非常に驚き、そして喜び、やはり自分の思っていたとおり名馬であると自信を深めた、今取りおさえて厩に連れて行くのはかえって悪いと思いそのままにして床についた。翌朝起きて厩に行くと馬は何知らぬ顔でおった、馬喰はいよいよ喜び名を、池月と名づけて喜び勇って宿をたった。そして弥彦の猿ガ馬場に差しかかるや、引いていた、池月が一声高くないた。すると弥彦山の絶頂より墨を流した様な黒雲が湧きおこって、見る見る広がって峰をおい谷を埋めつくした。しばらくしているうちに、いづこより来たものか、真黒な漆を塗った如くのつややかな逞しき駒が一頭あらわれて、池月に近づきて、馴れ馴れしく睦び、池月を引いて歩けば後についてきた。馬喰この馬を磨墨と名づけて、二馬を引いて京に上った。この二頭は間もなく、鎌倉幕府の源頼朝の手に入り後日、宇治川の戦に、有名な先陣争いに「池月」は佐々木四郎高綱、磨墨は梶原源太景季に下賜され、二氏をして名を竹帛に垂るの功名をなしめたとゆう話が伝えられている。

沼池の開拓

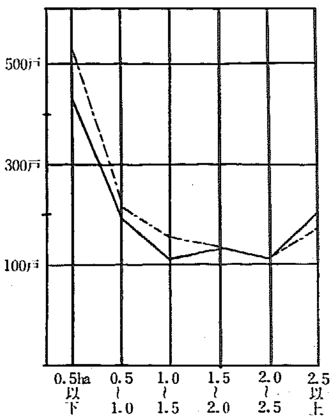
兄の名を景量、弟の名を景義の兄弟があった。信洲森山の人であった。如何なる事情だか判らないが、両人手をたづさえて、流浪の身となった。兄の景量は広伝と名乗り、草庵を結びて念仏三昧に佳していた。そして不幸にして、眼病を煩へて盲目となり、京都に上り針灸の術を学び、蔦都（つたいち）の号を得て、慶安年中、池沼荒無地多きこの地方に尋ね来り、病人に施術して、その間、百姓其の語らいに、耕作地不足の嘆声を再々きいていた。敏達なる御坊は痛く農家の将来を察していた。ある日船を願うて池沼を漕ぎ出した時、船頭過って棹のはしに着いた泥土を御坊の頬にはね飛ばした。船頭が非礼をわびると、御坊にっこりわらい、頬の泥土を取りて土地の痩肥如何にと、指先そして、口に入れて試していた。優に良田となり得る土質なるを知り、自らも鍬を取り昼夜開拓に心血を注いだ。その結果、年数幾程もなくして、一村落を成すに至った。田子島、新谷、油島、長島、部落も、蔦都坊の開村とされている。

目でみる村勢

専業兼業別農家戸数及び構成比



規模別農家の推移



金参千円寄附有益に使用させていただきます。

岩室村社会福祉協議会

越佐 間瀬サーキット
COURSE LENGTH 3000m

間瀬下山海水浴場に

自動車サーキット建設中

『老人と子供の村』から脱皮

佐渡、弥彦国定公園の中心地岩室村は、厚生省の国民保養温泉地の指定をも受け、観光発展が大きく、クローズアップされ、その後温泉集中加熱事業完成、海岸道路、弥彦山有料道路（スカイライン）開発に伴い観光岩室を強力に推進し、期待されているが、更に間瀬下山地区に、自動車サーキット場が建設されつつある。これは現在船橋市にあるサーキット場が飛行場拡張工事のため、今年中に廃止されるため、日本自動車連盟加盟クラブ新潟県オートクラブが間瀬地区を最適の場所と定め、自動車ラリーのスタート、レース、パトカー、白バイの練習場、陸連とタイアップしてマラソンの開催、自転車ロードレース、交通安全指導等の広い範囲に利用できるとされ、スカイラインを走るだけでなく、岩室村にサーキット場があるという事で新潟～寺泊間の海岸道路及びスカイラインの基点でもある関係上、下山の海水浴場の裏手が最適の場所と選定され、村議会も特別委員が出来、スカイラインに伴る観光関連事業として、協力を決定、スカイラインができても、第一次計画では、有料道路部分のみが舗装、それ以外は第二次計画なので、間瀬サーキット場が完成すれば必然的に交通量も多くなり、樋曾～間瀬越～間瀬の間は県道拡巾及び舗装も早くなることも予想され、村内の交通の便、生徒の通学、通勤及び観光客の誘致客に大きく役立つものと考えられ、村当局、地元間瀬部落も大いに協力し、『老人と子供の村から』脱皮しようと懸命である。

今年の米価

うるち3等は 7，932円

今年の生産者米価は、一五〇kg（一石当り）一九、五二一円公表されて、すでにご承知のとおりですが六〇kg当り各期別毎に、政府へ売渡す価格は次の表のとおりです。

この価格表にはB麻袋代百円が含まれています。昨年に比較して、うるち六〇kg当り六〇〇円の値上となっています。

もち米は調定内（割当内）のものには、昨年同様加算金がつきますが、調定外のものにはつかないので、うるちの価格になります。

各期別の加算は、

一期　二四〇円。
二期　一六〇円。
三期　八〇円。

で昨年同様です。

昭和42年産米政府買入価格表

（60kgB麻袋価格）

	期別 等級	第1期 9月30日まで	第2期 10月11日まで	第3期 10月20日まで	10月21日以降
うるち	1等	8,092円	8,012円	7,932円	7,852円
	2等	8,012	7,932	7,852	7,772
	3等	7,932	7,852	7,772	7,692
	4等	7,852	7,772	7,692	7,612
	5等	7,652	7,572	7,492	7,412
もち	1等	8,652	8,572	8,492	8,412
	2等	8,572	8,492	8,412	8,332
	3等	8,462	8,382	8,302	8,222
	4等	8,352	8,272	8,192	8,112
	5等	8,152	8,072	7,992	7,912

収穫だ!!　さあ，がんばろう。

出稼ぎされる方は是非

職安（役場）を通しましょう。

いよいよ忙しい収穫期を迎えました。幸い今年も大豊作が予想され、お互に喜び合い度いと思います。しかし取り入れが終った後皆さんの中で、農閑期を農外労働を予定されている方々も多いことと思います。とりわけ県外へ出稼ぎされる方もあることでしょう。

職安では、この様に出稼者のためにいろいろ御相談を申上げています。

県下では出稼者の中で、困っている人や、中には行方不明で留守家族の困っている例は数多くありますので出稼ぎされる場合は必ず村の出稼相談所（役場）又は職業安定所へご相談下さい。よい求人をたくさん用意してあります。

正しいルートで働くことは、働く人が幸せであるばかりでなく、留守家族も安心して暮せることです。

なお、職安では出稼ぎされる方々には手帳を差上げます。出稼ぎに必要なことがいろいろ書いてあります。

是非手帳をもらって出稼ぎに行く様おすすめいたします。

9月の納税

国民健康保険税4期

納期　9月16日～9月30日